

令和5年度 諫早市立小野中学校 学力向上プラン

◎生徒の実態

学習規律が定着している生徒が多く、落ち着いて授業に取り組むことができる。学力については二極化傾向にあり、「思考力・判断力・表現力」に課題を抱える生徒への積極的支援が求められる。令和4年度の全国学力・学習状況調査および県学力調査から、全体的に「書くこと」「読むこと」における課題が見られた。

【学力向上のための方針】

- 全ての教科において、学習規律を徹底し、学びの習慣化をめざす。
- 各教科・領域において「きく」活動の工夫と改善に取り組む。
- コミュニケーション活動をととして、言語活動の充実を図る。
- 学力の土台となる基本的な生活習慣の定着や自主学習の充実に向け、家庭との連携を図る。
- 小学校との連携をととして、学習内容および指導方法の共有を図る。

◎到達目標

自己の課題を把握して、主体的に学ぼうとする生徒を育成するために、主要施策の検証軸である「家で計画を立てて勉強する生徒」を70%の目標とする。又、学校外で平日に2時間勉強する生徒を50%の目標とする。

生徒に身につけさせたい力

本校生徒の学力にかかる実態を令和4年度の各種学力調査から見ると、次のとおりである。

【国語】

全国学力状況調査では、読むことや書くことなど基本的な学力の定着が望まれる。また、「話すこと・聞くこと」については、全国平均程度なので、今後書くことや読むことを中心に力を入れなければならない。県学力調査では、「話すこと・聞くこと」および「書くこと」については、県との比較から課題があると考えられる。特に「書くこと」については、読解力が低い生徒にとっては、長文の設問があると、それだけで苦手意識を感じ、無回答になっている。

【英語】

特に与えられた会話のやり取りの内容から推測し、自分の発言として適切な英文を書くこと。特に、疑問詞を用いて目的を訪ねたり、何かを依頼したりする表現を書くことに課題がある。その改善策として、内容語について、綴りのテストを行い、会話のやり取りをした際には、最後に書かせて文法の定着を図る。

【数学】

令和3年度同様、県学力調査では、関数が県より低く、2つの文字が関わり合いながらいろいろな値を取る、関数そのものの意味がわかっていない生徒が多い。授業の中で走行距離とガソリン等、具体的な例を挙げながら関数を身近に感じさせる。また、図形が県より低く立体の展開図等、空間を平面にする作業等に苦手意識を持っている。立体を見取り図や展開図の表す作業を授業の中で多く設定していく。

PDCAサイクルを生かした課題の改善

PLAN

- 学力向上推進計画
- 学力向上についての研修課題の設定
 - 各教科の重点努力目標の設定
 - 研究推進計画の確認

DO

- 計画による教育の実践
- 学習規律徹底の取組
 - 少人数指導・TT実践
 - 研究授業の実践
 - 読書、家庭学習、言語活動の充実、相談活動の実践
 - 小中連携(学習内容の連携、学習規律の連携、指導法の連携)

CHECK

- 実施状況の評価
- 各種学習状況調査による実態把握(全国・県・市・学校独自調査等)と各種アンケートの分析

ACTION

- 課題の焦点化と授業改善
- 新たな課題の整理
 - 教科毎の授業改善
 - 教育課程の改善

【「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて】

- ・授業規律をしっかりと整えてから授業に入る。
- ・3つの「きく」～「聞く」「聴く」「訊く」の場面を設定し資料や考えを比較して、意見を形成させる。
- ・参考例を提示して、書き方やまとめ方のポイントを示す。
- ・ワークシート等で自分の考えを書く場面を設定する。
- ・令和3年度から、アンケートに課題があった課題対応能力に対して各教科で手立てを考え実践する。

【研究主題の実現に向けて】

- ・総合的な学習の時間における「系統性」を持った地域学習の構築
 - ※1年生：「小野の魅力を知る」
地域の良さを知るための探求活動を行う。
 - ※2年生：「小野の現在について考える」
地域住民との協議をして小野の現状と未来(課題)について考える。
 - ※3年生：「小野の未来について考える」
職場体験学習を通して、その職業を通して地域にどう貢献するかその展望を考える。
- ・育友会や地域団体と連携を図る。
- ・ふるさとの活性化キャリア教育に繋がりを明確にするため、生徒の実態からキャリア教育における身につけるべき資質・能力を具体化する。
- ・キャリア教育の全教科における実践を行う。
- ・地域学習や地区生徒会活動をととした参画意欲と自己肯定感の醸成を行う。

改善のための具体的な取組

1 指導内容・方法の工夫、改善

- TT授業の効果的な実施
- 集中した朝読書の実施
- 「きく」力を高める授業の実施
- 個に応じた指導の実施

2 教育課程編成上の工夫

- 新学習指導要領の主旨を生かした教育課程の編成
- 体験的な学習、課題解決型学習への取組

3 校内研修の充実

- 研究仮説に基づく授業改善
- 学習規律の徹底
- 各種調査結果等を生かした指導と評価

4 小学校との連携

- 中1ギャップ解消に向けた情報の共有
- 身につけさせたい力の共有と系統的な指導法による連携

5 家庭・地域との連携

- 育友会と連携した家庭学習充実に係る取組
- メディア使用に係る連携
- 地域行事への積極的な参加による参画力の育成